

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 8 年 6 月調査結果 - -

( 平成 1 8 年 6 月 3 0 日 )

調査期間：平成 1 8 年 6 月 1 9 日 ~ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 6 商工会議所が 2 5 8 2 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 1 卸売業 2 3 3  
小売業 7 3 7 サービス業 6 1 2

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは2カ月連続でマイナス幅が拡大、目立つ仕入コスト上昇の声**

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（23.6）よりマイナス幅が3.9ポイント拡大して27.5となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大し、今年の1月水準（26.9）を割り込んだ。

産業別の業況DIは、卸売でマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費堅調、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰による仕入・輸送コストの上昇、公共事業の縮小等による景況の停滞感、来店者数の減少など消費の低迷、先行き不安を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「区役所発注の改修工事を受注するなど、緩やかではあるが受注量が増加しており、今後につなげたい」（建築工事）との声がある一方、「原材料の仕入コスト上昇が続いており、その影響は近いうちにオイルショックを凌ぐのではないかとされている」（一般工事）「設備投資の増加は一部に限られており、景況感の改善を実感することはできない」（電気工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「一部の組合員が県の融資制度を利用して設備投資を実施しており、従業員の不足感も高まるのではないかと」（金属加工機械製造）との声がある一方、「運送業者より7月1日から輸送料金を10%値上げする旨の連絡があり、困惑している」（水産食料品製造）との声のほか、「原材料コストが上昇しているが、顧客からは重ねて納入価格の引き下げ要請を受けており、価格転嫁は困難な状況にある」（暖房装置・配管製造）と、引き続き仕入コストの増加による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「取引先の数が増加しており、昨年同時期と比較して業況は好転している」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「生コンクリートの生産・輸送コスト上昇の影響で建設会社と納入価格引き上げに向けた交渉を行っているが、上昇分をどこまで転嫁できるかは不透明」（建築材料卸売）「卸売業界は企業規模に関係なく淘汰が進んでおり、業況は大変厳しい」（他の卸売）との声も寄せられている。

【小売業】では、「景気回復感を背景に客単価上昇や高額品の売れ行き好調などが見られ、個人消費は堅調な動きを維持している」（百貨店）との声がある一方、「道路交通法改正により駐車違反の取締りが強化されたが、来店者数の減少などを通じて商店街の売上にも影響が出ている」（商店街）「5月に引き続き6月も売上が前年同月実績をわずかに下回ると推測しており、先行きに対しても不安感を持っている」（百貨店）との声も寄せられている。

【サービス業】では、「紙類や化学製品などを中心に保管貨物の荷動きは改善への動きを続けており、前年実績をやや上回っている」（その他サービス）との声がある一方、「一時的に宿泊者数が増加することはあるが、公共事業の減少を背景とした長期滞在者数の減少が足を引っ張っている」（旅館）といったコメントのほか、「荷動き低迷、燃料価格の高騰に加え、道路交通法改正による駐車違反对策で新たなコスト負担を強いられており、採算が悪化している」（運送業）との声も聞かれる。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が3.4ポイント拡大して20.8となり、4カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、建設、小売、サービスで拡大し、製造でプラスからマイナスに転じた。

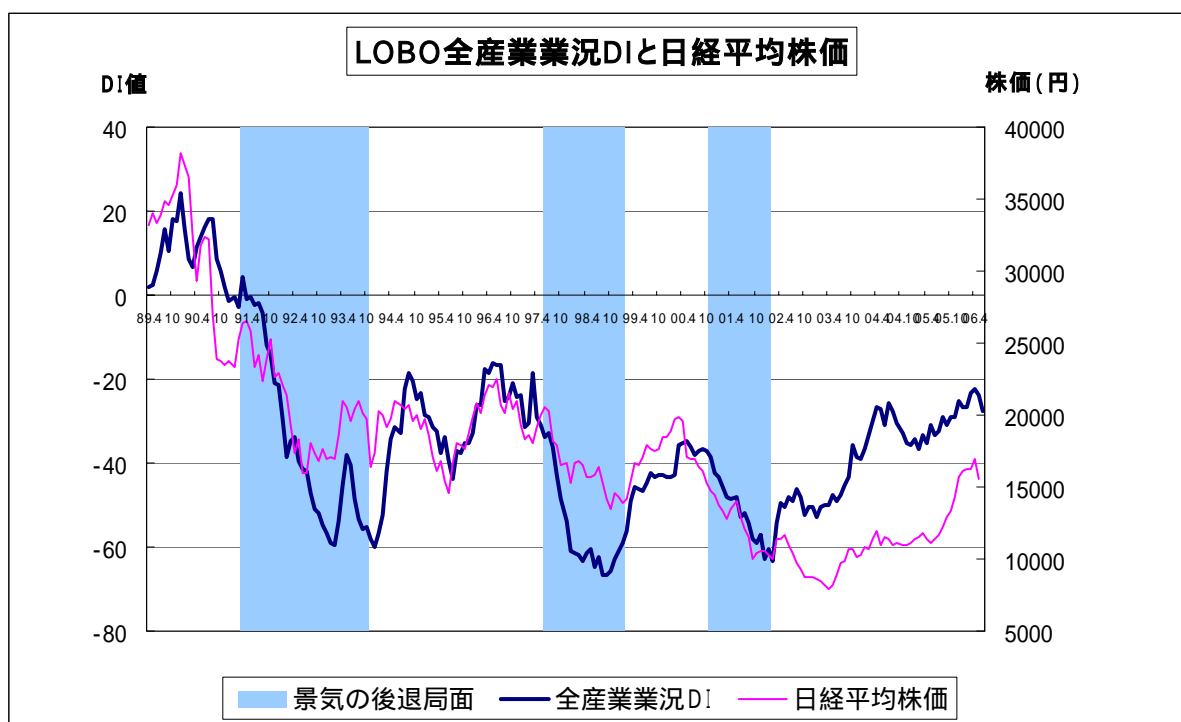
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が3.1ポイント拡大して29.7となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.5ポイント強まって18.3となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感の小売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が2.6ポイント強まって27.1となり、3カ月連続で強まった。仕入単価DIは平成3年5月の調査開始以来、最低の数値を示した。産業別にみると、DI値の上昇超感が全産業で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感が0.4ポイント強まって2.1となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の過剰超感建設と製造で弱まったものの卸売で強まり、小売とサービスで不足超感が弱まった。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が22.2と、昨年同時期の先行き見通し(28.1)に比べて改善している。



【業況についての判断】

6月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 23.6 ）よりマイナス幅が3.9ポイント拡大して 27.5 となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

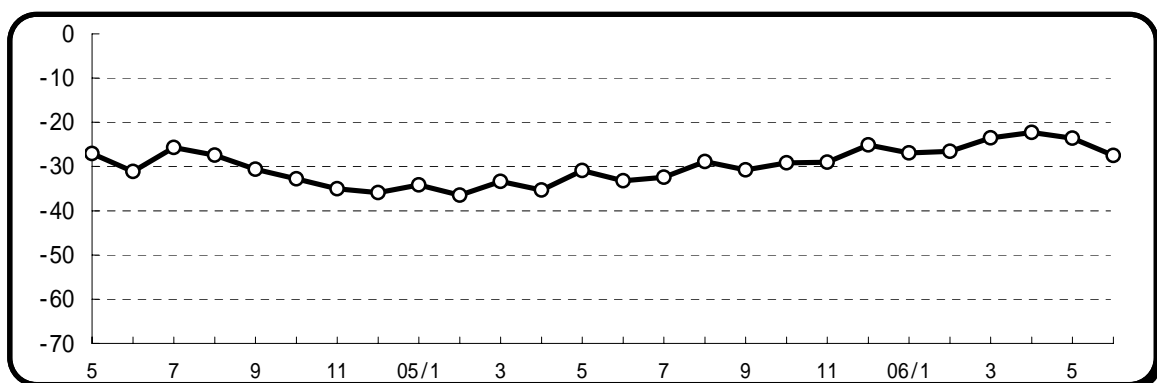
向こう3カ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 22.2 と、昨年同時期の先行き見通し（ 28.1 ）に比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	26.9	26.6	23.5	22.3	23.6	27.5	22.2 ( 28.1)
建設	38.3	37.3	36.4	40.7	40.0	44.1	35.8 ( 40.4)
製造	12.2	12.7	10.7	11.5	10.5	16.1	19.2 ( 18.3)
卸売	38.4	35.7	33.3	25.5	32.3	31.5	25.6 ( 30.2)
小売	25.2	26.6	21.6	18.3	22.4	23.4	16.6 ( 28.7)
サービス	32.9	30.8	27.8	26.1	24.6	32.5	22.5 ( 28.2)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年6月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

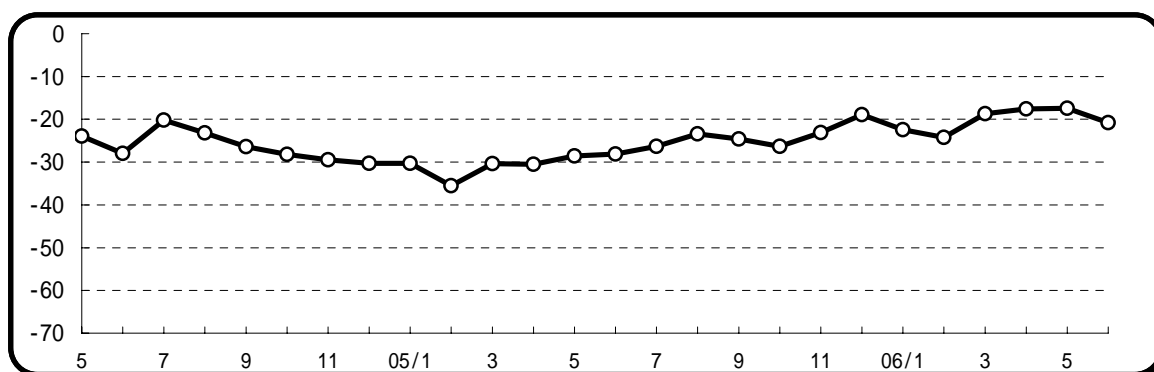
売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が3.4ポイント拡大して20.8となり、4カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、建設、小売、サービスで拡大し、製造でプラスからマイナスに転じた。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が14.3と、昨年同時期の先行き見通し(20.9)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	22.4	24.2	18.7	17.6	17.4	20.8	14.3 (20.9)
建設	34.6	35.7	33.3	35.8	37.0	38.3	28.0 (29.5)
製造	3.4	4.5	0.0	1.4	0.9	2.3	7.3 (10.8)
卸売	32.1	34.4	34.0	28.8	31.1	23.5	18.1 (22.8)
小売	24.7	29.3	20.6	18.8	20.8	23.4	12.1 (25.7)
サービス	28.3	27.6	21.3	17.4	14.5	25.4	14.3 (18.9)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

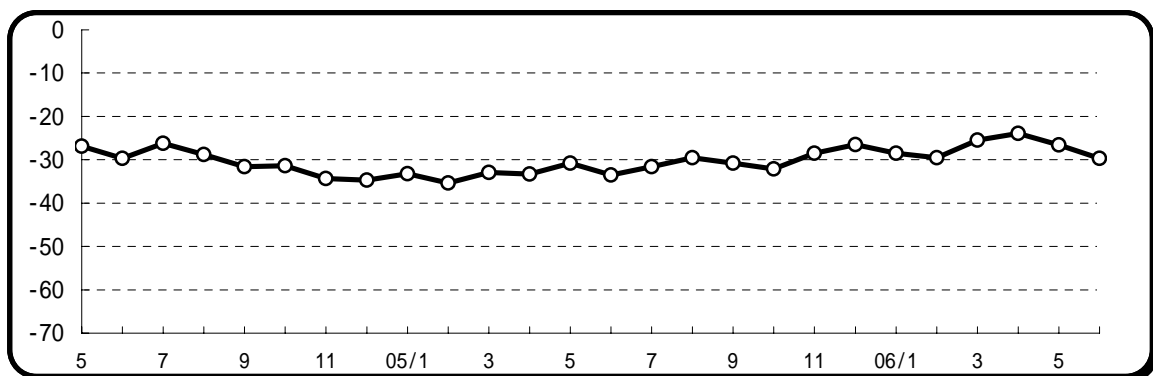
採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が3.1ポイント拡大して29.7となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が22.9と、昨年同時期の先行き見通し(25.1)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	28.5	29.5	25.5	23.9	26.6	29.7	22.9 (25.1)
建設	45.4	43.7	41.0	41.1	45.6	46.6	39.1 (39.4)
製造	17.8	18.8	14.5	16.4	21.8	24.3	21.7 (21.4)
卸売	31.4	26.6	25.8	25.0	30.5	26.5	25.6 (19.8)
小売	23.3	28.8	23.2	17.4	21.4	26.1	15.5 (22.6)
サービス	34.0	33.6	30.0	28.5	24.1	30.4	21.7 (24.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	18.8	19.4	18.3	17.1	17.8	18.3	17.8 (19.4)
建設	31.3	32.8	31.6	30.0	32.2	34.1	31.0 (34.6)
製造	13.0	10.5	12.2	11.8	11.7	12.4	16.0 (12.7)
卸売	13.5	17.1	16.7	10.6	17.0	17.4	17.1 (12.8)
小売	15.4	18.0	14.5	12.7	15.0	13.6	12.8 (17.8)
サービス	22.8	22.8	21.6	21.6	17.9	19.6	17.3 (20.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、小売で悪化超感が弱まったものの、他の4業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が弱まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で悪化超感が強まったものの、他の3業種では弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	21.8	19.6	19.6	21.7	24.5	27.1	23.2 (14.7)
建設	29.1	25.7	26.3	27.8	37.3	37.4	33.2 (21.8)
製造	32.3	34.6	33.3	39.3	38.4	41.3	31.2 (27.2)
卸売	18.2	9.1	11.9	19.4	25.0	27.2	26.3 (19.1)
小売	10.7	7.9	7.4	8.0	10.0	13.5	13.6 (4.6)
サービス	21.0	18.3	18.9	16.2	19.7	21.8	18.5 (7.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が3カ月連続で強まった。産業別にみると全業種で上昇超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、全業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	0.7	1.2	0.7	0.6	1.7	2.1	4.1 ( 6.2)
建設	17.9	17.6	16.5	16.3	21.9	19.0	15.8 ( 17.9)
製造	2.7	1.6	1.6	1.1	2.3	1.8	7.2 ( 5.4)
卸売	3.1	1.3	1.3	3.8	3.7	4.9	6.4 ( 10.9)
小売	7.4	3.9	6.4	7.6	6.7	5.4	3.9 ( 1.3)
サービス	3.8	0.3	2.0	4.2	2.4	0.2	1.8 ( 2.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が強まった。産業別にみると、建設、製造で過剰超感が弱まったものの卸売で過剰超感が強まり、小売、サービスで不足超感が弱まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、製造で過剰超感が強まるものの小売で不足超感に転じ、建設、卸売、サービスで過剰超感が弱まる見通し。



## 【平成18年6月の景気キーワード】

### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費堅調、先行き期待という声が寄せられている。「ある程度の受注実績を上げ、今後も期待できることから、業況は徐々に改善する見込み」(岩見沢・塗装建築工事)とのコメントに加え、「組合員の中に工場新設、設備投資などの前向きな動きが見られる」(坂出・他金属製品製造)と攻めの経営への転換を示すコメントが寄せられている。また、「七夕やお中元の季節における売上拡大を実現するため、積極的に行動していきたい」(清水・農畜産水産物卸売)、「中心市街地の居住人口増加や教育機関の進出により、来店者数が増えて業況が好転している」(北上・百貨店)、「先月に続いて食品部門が好調を維持しているとともに、今後は衣料品部門なども売上が上向くと予想している」(大川・その他の小売)との声も寄せられている。さらに、「昨年同時期と比較して売上はわずかとはいえ増加しており、今後も営業を強化していく予定」(岡谷・冠婚葬祭)とのコメントも寄せられている。

### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷と先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「公共工事の激減に加え民間工事も競争が激化しており、経費を削減しても採算を好転させることができない」(金沢・建築工事)、「国内のワイン消費量は増加傾向にあるものの、県内の関連中小企業の業況を好転させる程ではない」(甲府・酒類製造)、「最近の着物の需要減少が取引条件の悪化、加工単価の下落を招いており、現状に対する危機感は非常に強い」(京都・和装・足袋製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「依然として荷動きは低迷しているとともに、最近では原油価格高騰と借入金利上昇が新たな懸念材料として浮上」(多治見・家具・建具等卸売)とのコメントのほか、「官公庁のボーナスに期待するも、原油価格高騰が商品の仕入価格に悪影響を及ぼさないかが心配」(鳥取・商店街)、「景気回復の兆しが未だ見えてこない中、都市部の大企業との格差が拡大する流れは依然続いている」(高鍋・理容)とのコメントが寄せられている。

### 仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き原油・素材価格の高騰等による仕入コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「競争激化に加えて材料の仕入・輸送コスト上昇の影響を受け、採算は依然として好転していない」(静岡・一般工事)、「銅など原材料の仕入コストが上昇しており、現在、納品先と納入価格引き上げを目指して交渉中」(上田・電線・ケーブル製造)、「原材料の仕入・輸送コストが上昇しているが、販売価格は上げられないため、採算が悪化している」(瀬戸・家具・建具卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「菓子メーカーが鶏卵の仕入コスト上昇を理由に納入単価を上げている」(浦安・その他の小売)、「売上の減少傾向に加え、石油やガスなど燃料の仕入価格上昇に伴い採算が悪化」(福山・旅館)といった声や、「天候不順の影響が、野菜の仕入価格が上昇しているため、採算は悪化傾向にある」(西条・食堂・レストラン)といったコメントも寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
18年	4月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	5月	回復への動き	悪化への懸念	仕入コスト上昇
	6月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶり、売上・採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「区役所発注の改修工事を受注するなど、緩やかではあるが受注量が増加しており、今後につなげたい」(建築工事)との声がある一方、「原材料の仕入コスト上昇が続いており、その影響は近いうちにオイルショックを凌ぐのではないかとされている」(一般工事)「公共事業の受注が困難になるとともに、民間工事も採算が悪化している」(一般工事)「設備投資の増加は一部に限られており、景況感の改善を実感することはできない」(電気工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「一部の組合員が県の融資制度を利用して設備投資を実施しており、従業員の不足感も高まるのではないか」(金属加工機械製造)「引き合いが多く安定した受注量を確保しており、受注単価も横ばいかやや改善の兆しが見えている」(一般産業用機械製造)との声がある一方、「繁忙感は続いているものの、新規で受注する案件が少しずつ減少している」(鉄素形材製造)、「運送業者より7月1日から輸送料金を10%値上げする旨の連絡があり、困惑している」(水産食料品製造)「原材料コストが上昇しているが、顧客からは重ねて納入価格の引き下げ要請を受けており、価格転嫁は困難な状況にある」(暖房装置・配管製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「取引先の数が増加しており、昨年同時期と比較して業況は好転している」(農畜産水産物卸売)「近隣の行楽地や温泉地への来客者数が増加しており、当社の顧客である宿泊施設などへの売上が増えるのではと期待している」(食料・飲料卸売)との声がある一方、「生コンクリートの生産・輸送コスト上昇の影響で建設会社と納入価格引き上げに向けた交渉を行っているが、上昇分をどこまで転嫁できるかは不透明」(建築材料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「飲食店や健康を売り物にした店舗の新規出店が増えており、今後もこの勢いは続くと思われる」(商店街)「景気回復感を背景に客単価上昇や高額品の売れ行き好調などが見られ、個人消費は堅調な動きを維持している」(百貨店)との声がある一方、「道路交通法改正により駐車違反の取締りが強化されたが、来店者数の減少などを通じて商店街の売上にも影響が出ている」(商店街)「地域人口の減少や高齢化、組合加盟店の減少などを考慮すると、小売業の今後の先行きは厳しい状況が続くものと予想」(商店街)「5月に引き続き6月も売上が前年同月実績をわずかに下回ると推測しており、先行きに対しても不安感を持っている」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算・売上D Iともに5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「わずかではあるが、業況が好転する兆しが見えている」(他の一般飲食店)、「紙類や化学製品などを中心に保管貨物の荷動きは改善への動きを続けており、前年実績をやや上回っている」(その他サービス)との声がある一方、「一時的に宿泊者数が増加することはあるが、公共事業の減少を背景とした長期滞在者数の減少が足を引っ張っている」(旅館)「来店者数が増加する一方で客単価は横ばいのままであり、仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁できない状況が続いている」(食堂・レストラン)「荷動き低迷、燃料価格の高騰に加え、道路交通法改正による駐車違反对策で新たなコスト負担を強いられており、採算が悪化している」(運送業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、全ブロックでマイナス幅が拡大した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

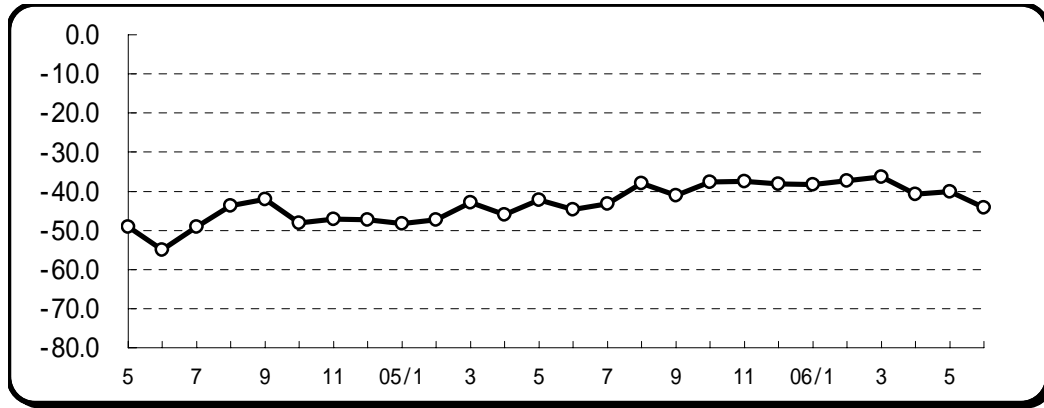
ブロック別の向こう3カ月（7月～9月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、中国、四国で悪化したものの、他の7ブロックで改善した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

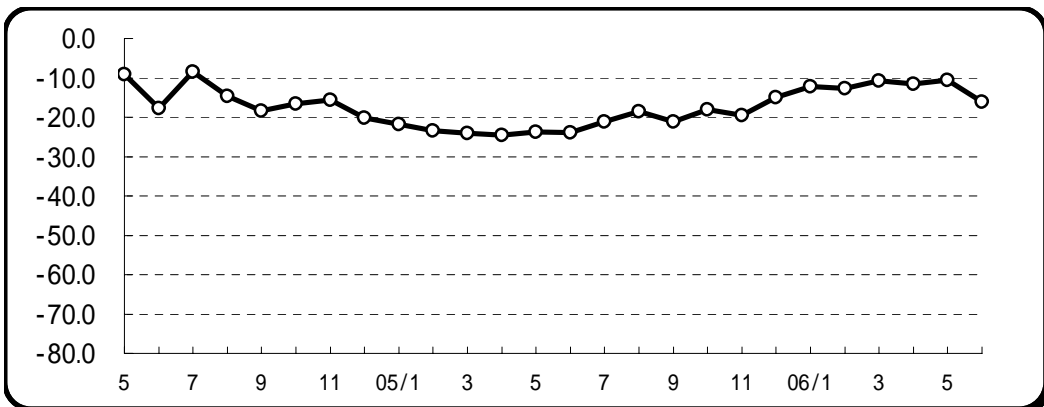
	18年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全 国	26.9	26.6	23.5	22.3	23.6	27.5	22.2 ( 28.1)
北海道	25.9	35.4	33.6	29.3	29.4	36.2	27.0 ( 32.4)
東 北	34.2	25.2	27.9	29.6	30.3	33.8	25.3 ( 33.5)
北陸信越	33.3	28.0	22.7	23.7	17.3	25.1	15.8 ( 25.7)
関 東	19.2	21.0	19.3	15.7	21.1	22.6	17.0 ( 24.9)
東 海	14.9	17.2	14.3	15.0	20.8	22.6	22.0 ( 26.1)
近 畿	34.5	32.2	26.5	22.1	25.4	28.5	24.4 ( 29.3)
中 国	32.6	41.4	27.0	26.5	26.9	31.9	33.6 ( 28.8)
四 国	35.4	33.3	31.0	36.7	29.0	40.0	33.1 ( 30.3)
九 州	25.0	19.2	21.0	21.1	20.2	21.0	15.6 ( 28.4)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

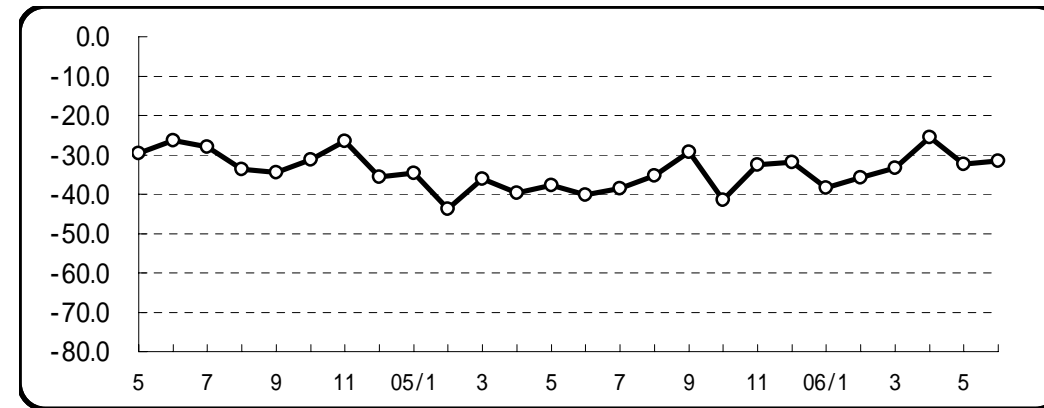
## 建設業



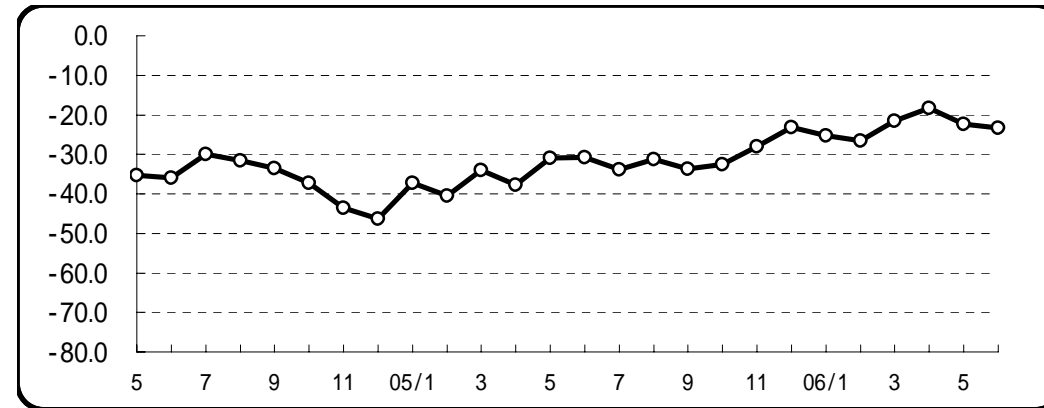
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

